

5月22日(火)発行
能高新聞部
県北総体
号外

硬野
サッカー界北を制覇

五十九年度東北総体が去る五月十二日から十四日（テニスは悪天候のため十六日）まで行われた。各都も大いに健闘し、力と技を充分に発揮した戦いぶりをもてついていた。三年生はもちろんだが、一、二年生の活

サッカー
やったぜ
優勝

△一回戦
本校
2
(11
10)
1
六農

▽準決勝
本校 4
22
11
00
0
六農

決勝
本校
乙
11
11
00
0
花輪

初戦の大農には、練習試合で勝っているだけに、ベンチ・選手にも自信を持って臨んだ。前波にのり中盤にだめ押しの一点下り、常に押しきみに進め、二番ねえ、二対一の優勝を飾った。

佐藤が先制シートを決めた。
後半二分に六農が同点シート

敬度のピンチを迎えたが、本校のF.B.、G.K.は、追加点を許さなかつた。残り十分から本校は猛攻をしかけ、ラスト四十五秒に苗佐藤のミシュートが再度、ゴールにすいこまれた。

二回戦は、本校のペースで試合はこぼれ、前、後半とも二点ずつ入れ、四対〇で決勝に進

球野
二年ぶりの
栄冠

能代	能代商
0	0
0	0
0	0
3	0
0	0
4	0
0	5
0	0
X	0
7	5

前半戦は、投手戦で両校とも得点をあげることができなかったが、四回に本校が一死一、三塁から伊

んだ。この試合前、部長は、「練習試合で勝つてはいるが、相手も合宿をして動きがよくなつてきているので、油断はできない。しか

決勝は、優勝候補の鳳鳴をPKで破った花輪との対戦になった。

この日はグラウンドコンディショニングが悪く、細かいフレーが出来ず本校には少し不利のようだった。

カレ、前半五角の試合で終了間
隙に主将武田のベディングシュ
ートで貴重な一点を入れた。後半も
波にのり中盤にだけ押ししの一点を
加え、二対一の優勢を飾った。

バスケット

無念!!の
準優勝

薩埵の左前打、田口の右中間二塁
投で三点を先取した。さらに、六
回、又安打ノ死球をつかんだ一死
満塁から田口の逆ゴロ野際、佐藤
の投前二点スクイズなど、七点を
加え、ワロと差を広げた。

これに対し、能面は六回まで
本校の右下手投げの伊藤康に散発
三安打、無得点に抑えられていた
が、七回一死、二塁から石井、
工藤博の左前適時打など４安打、
三死三塁に、敵失をかられ打者十
人を送る猛攻で五点を奪い、その
差二点に詰め寄った。しかし、こ
の反響を伊藤がよくふんばり、ハ
九回も無得点に抑え、ワロを逃
げさせた。

本校は、見事、昨年の雪どく
も果たし、二年ぶり十四日目の優
勝を手中に収めた。

本校	本校	▽一日目
58	82	
1	1	
68	68	
鳳鳴	十和田	

本 校	本 校	▽ 二 日 目
76	69	
1	1	
73	52	
大 館 下	合 川	

本校	本校	▽三田目
46	62	
1	1	
131	59	
能代工	鳳鳴	

対十和田戦では、前半は、接戦だったが後半相手の反則が目立つてきたのをき、かけに本校は、点差をじりじり引き延ばし圧勝した。

対鳳鳴では、前半、鳳鳴の堅い
ディフェンスで点がなかなか入ら
ず、なんとかリードを保つていた
が、後半八分に逆転され、選手の

白球 熱戦 大健闘

退場なほがあり、惜しくも破れた。本校対合川戦では、前半から競々とシュートを決め、点差をつけた。合川も、好ばりを見せたが、本校が圧倒的な強さで勝ち進んだ。対大館工業戦では、前半、押さへきみでフリードされてゐた。しかし、後半になつて次々とシュートが得点に結びつき、劇的な逆転勝利を決めた。

初め本校対大館鳳鳴の試合では前回大館鳳鳴に敗れたということもあつてか、熱気が感じられた。試合開始後間もなく、相手チームのフアルドで本校がフリースローを二本決め、その後もシュートを決めてゐたが、相手も必死に追い上げつゝ、近差で勝利を得た。対能代工業戦では、結果的には敗れたが、嶋田先生の評によると「工業との試合は、今までの中で一番いい試合だ」と。うちのチームは得意力が悪いが守りがいい。今後はスタミナをつけて望みたい」といふことだつた。

能代戦をのぞいては、近差でのきつい勝ちであるだけに、見ごたえのある試合が多かつた。

▽一回戦
本校 2
 $\begin{array}{r} 15 \\ 1 \\ 514 \end{array} \overline{) 12}$
0
十和田

▽二回戦
本校
乙
5155
11
1015
1
大館商業

▽決勝リーグ

本校	本校
2	7
$\begin{array}{r} 15 \ 13 \ 15 \\ \quad \quad \\ 9 \ 15 \ 10 \end{array}$	$\begin{array}{r} 10 \ 9 \ 1 \\ \quad \quad \\ 15 \ 15 \end{array}$
7	2
大館工芸	合川

本棧
0 (911515) 2 鳳鳴

この日、千代の中にも一学生が一人知れ、ゐたが、他の二、三学生にひけをとらないアレイで、好評を得した。

二回戦、対大館商業戦では、一セット目では彼にのり切らずに惜しくも落としたが、その後は調子を取りもどして圧勝した。決勝リーグに残った本校は、まず、今大会優勝校会川とあった。接戦の

末三セツトにもち込んだが、惜しくも敗れた。

監督は、「実力に乏しきほど差はないが、体力的に相手が勝つていった」と語っていた。

対大館工業戦は、両チームの打ち合いでなかなか点数が動かず、長い試合となった。二セツト目

は、セツトポイントも迎に相手は執拗にくい下がり、13点まで追いつけたが惜しくも落ととしてしまった。だが、三セツト目は、疲れが目えはじめた相手の点におよぶという見事な試合も見せてくれた。

対大館鳳鳴戦では、相手のレシ
ーブの良さの前にスパイクがな
かなか決まらなかった事と、サー
ブミスが目立った事で、一、二セ
ット共に一ケタ台におさえられて敗
れた。

